

2018年4月～7月実施 食物アレルギーへの緊急時対応 体験型出前セミナー

2018年4月～7月にかけて、小学校1校・保育園1施設・学校保健部会1団体の教職員を対象に「食物アレルギーへの緊急時対応体験型出前セミナー」を開催し、計50名の方が参加されました。講師は宮城県立こども病院の鈴木看護師と村上看護師に務めていただきました。

最初の座学では、食物アレルギーをもつ子どもの数は昔と比較すると増加しており、種類についても食生活の変化に伴い変わってきている現状をお話いただきました。また、食物アレルギー症状が出現した時の対応として、緊急時対応マニュアルを用いて一つ一つの症状を確認していく事を説明していただきました。

続いて、参加者はエピペン®トレーナーを用いて、エピペン®を打つ際の手順と、的確安全に打つためにも関節を固定することの重要性を確認しました。その後に食物アレルギーの緊急時対応についての動画を視聴し、今度は参加者自身が、子ども役・教員役・管理者役になり、食物アレルギー症状出現時の対応についてロールプレイを通して学習しました。実際に場面を設定して動いてみると、一人では判断に迷う部分や、慌ててしまう場面が見受けられました。講師からは①判断に迷ったら複数で対応する。②お互いに声を出して行う。③エピペン®使用のタイミングについて事前に保護者と相談しておくことが大切である。という3点のアドバイスがありました。

参加者からは、「座学だけでは分からなかった自身や施設の問題点・課題を確認できたので、今後も定期的な研修を行っていき、施設内でも職員一人一人が緊急時に対応できるよう努めていきたい」という意見が多く聞かれました。

